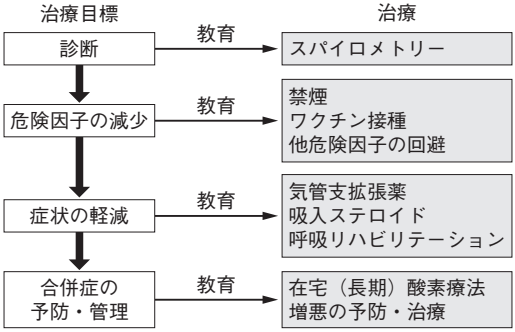
① 患者教育の位置づけ

- 慢性呼吸器疾患の予防，診断，管理のすべてのプロセスにおいて，患者教育は重要な位置を占める（図）.
- 教育の目的は，疾患に対する理解を深め，自己管理能力を獲得し，疾患への取り組みを向上させることである.
- 呼吸リハビリテーションにおける患者教育は，呼吸リハビリテーションと同じプロセスで実施していく.
- 患者教育は，行動科学・心理学に基づいた学習指導の原理に基づいて実施される.
- 行動を効果的に変容させるためには，長期計画だけでなく，達成しやすい短期目標を設定することが大切である.
- 日常生活のなかで実行した内容については，セルフモニタリングを行い自分の行動評価をすることが役立つ.
- 患者教育においても，多専門職が関与し，チーム医療として提供することが望ましい.

●患者教育の位置づけ（文献 1. p.15）



文献

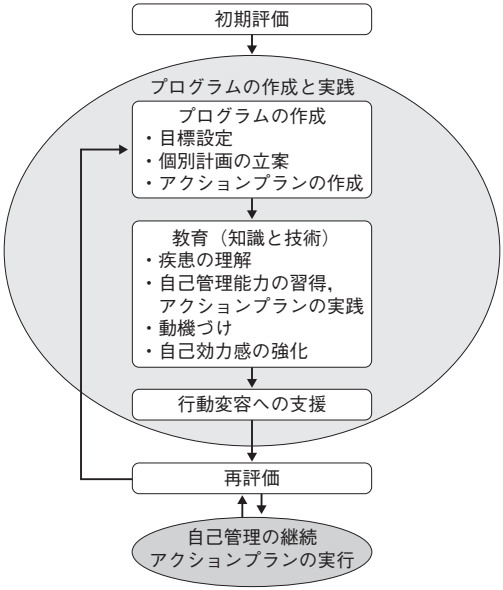
1）日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会, 日本呼吸器学会ガイドライン施行管理委員会, 日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会・呼吸リハビリテーションガイドライン策定委員会, 日本理学療法士協会, 編. 呼吸リハビリテーションマニュアル―患者教育の考え方と実践―. 東京: 照林社; 2007.

JCOPY 498-07644

② 患者教育の介入とプロセス

- 患者教育の介入は，初期評価，プログラムの作成と実践，再評価，維持の各プログラムから構成される（図）.
- 初期評価としては，理解力，自己管理能力，生活環境，社会状況などがあり，初期評価表（質問表）を用いるとよい.
- プログラムの作成と実践にあたっては，医療者と患者側の共同作業で個別のゴールが設定される.
- アクションプランの作成と実施後には，再評価が行われその結果を継続実施に反映することが大切である.

●患者教育のプロセス（文献 1. p.1）



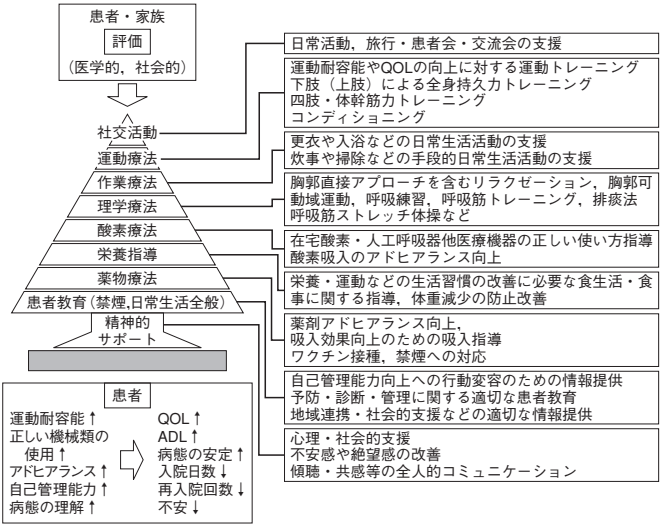
文献

1）日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会, 他, 編. 呼吸リハビリテーションマニュアル―患者教育の考えかたと実践―. 東京: 照林社; 2007.

③ 包括的呼吸リハビリテーションの構築

- 呼吸リハビリテーションは，まず，患者・家族の医学的および社会的評価に始まる．
- 患者教育，薬物療法，栄養指導，酸素療法，理学療法，作業療法，運動療法，社交活動などをすべて含んだ包括的な医療プログラムによって行われる．
- 慢性呼吸器疾患患者においては，帰結として運動療法耐容能の向上，アドヒアランスの増加，自己管理能力の向上が得られる．
- 最終結果として健康関連 QOL，ADL の向上，抑うつ・不安の軽減，入院日数の低下につながる（図）．

●包括的呼吸リハビリテーションの構成（文献 1 を改変引用）



文献

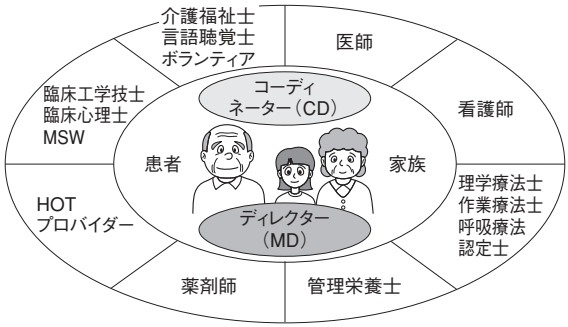
1）塩谷隆信. 呼吸リハビリテーションとは. In: 高橋仁美, 他, 編. 動画でわかる呼吸リハビリテーション. 第2版. 東京: 中山書店; 2008. p.2-10.

JCOPY 498-07644

④ 専門職医療チームの構成

- 包括的呼吸リハビリテーションは，専門職医療チームにより，多くの種目を総合的に患者に提供する医療である．
- 医療チームの構成は，医師，看護師，理学療法士，作業療法士，呼吸療法認定士，管理栄養士，酸素機器業者，医療ソーシャルワーカー，臨床心理士，介護士などであり，必要に応じて家族やボランティアも参加する（図）．
- 医療チームでは，コンセプトの統一やプログラムの方向性を決定するディレクター（医師）とスタッフ間の連携やプログラム内容を調整するコーディネーター（看護師，理学療法士）の役割が重要になる．
- ディレクターとコーディネーターは常に患者と連絡をとり，プログラムの進行状況，習得状況を把握し，医療チームのメンバーや家族に情報をフィードバックし，共有できるように係わる．

●包括的呼吸リハビリテーションにおける専門職医療チーム
（文献 1 を改変引用）



文献

1）塩谷隆信，他．COPDの管理．包括的呼吸リハビリテーション．アレルギー・免疫．2009; 16(8): 52-63.

⑤ 呼吸教室の運営

- 患者教育には，個別教育と集団教育がある．
- 病気，人体の構造，薬物療法，酸素療法など，全員で共有すべき知識を得るためには集団教育がよく，呼吸教室が効率的である（図 1）．
- 呼吸教室では，それぞれの職種がテーマを受け持ち，1 年間のスケジュール内でわかりやすく講義を行う（図 2）．
- 呼吸教室の実施により，運動耐容能や QOL に有意に改善がみられる[1)]．
- 病院外で行う患者交流会も教育のよい機会であるが，患者の様態急変に対対応する準備が必要である．

文献

1）藤井清佳, 高橋仁美, 菅原慶勇, 他.「呼吸教室」参加による効果と在宅での自主練習に与える影響. 日呼ケアリハ学誌. 2007; 16(2): 305-8.

JCOPY 498-07644